



リンゴ病。ほほが赤くなる 妊娠中の感染にご用心

平成 31 年 4 月 3 日
富山県感染症情報センター
(0766-56-5431 直通)
(0766-56-8142 細菌部)
(0766-56-8143 ウイルス部)

感染症発生動向速報

(平成 31 年第 13 週分・3 月 25 日～3 月 31 日)

《 インフォメーション 》

●伝染性紅斑（リンゴ病）

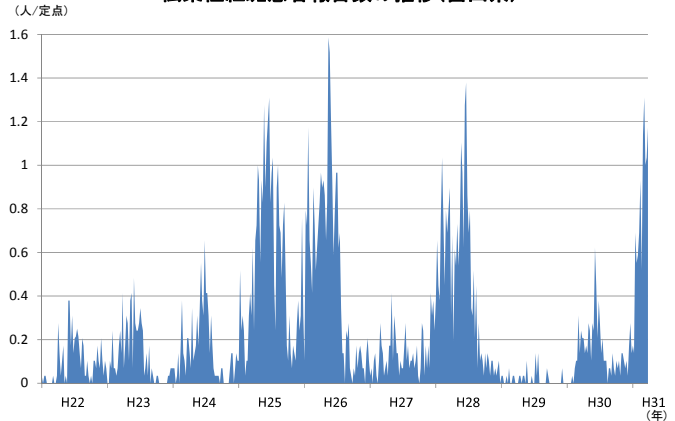
富山県内の伝染性紅斑の患者報告数は、定点医療機関当たり 0.93 人となり、先週 (1.17) より減少しましたが、年明け以降、増加傾向が認められます。伝染性紅斑の流行は年により周期があり、年始から 7 月上旬頃にかけて増加し、9 月頃最も少なくなる季節性があるため、今後の動向に注意が必要です (図参照)。

伝染性紅斑は、パルボウイルス B19 を原因とする感染症で、患者の咳やくしゃみ、またはウイルスが付着した手などを介して感染します。小児の場合、感染後 10～20 日で両方の頬に「紅斑」が出現し、リンゴの様に赤くなるが多いため、「リンゴ病」とも呼ばれています。紅斑は手足にもでき、全身に広がることもあります。紅斑は約 1 週間で消えますが、長引く場合や、一度消えた紅斑が再度現れる場合もあります。紅斑が現れる 1 週間～10 日前に微熱や風邪の様な症状がみられますが、この時が最も感染力が強い時期です。一方、紅斑が現れる時期にはウイルス量は少なくなっており、感染力はほとんどないと考えられています。

伝染性紅斑は、大人が感染することもあります。子どものように頬が赤くなることは少なく、手足の腫れや関節痛、関節の腫れなどが強く現れます。妊婦が感染すると、胎児に異常が起こり流産等の原因になることがあります。妊娠中は風邪症状のある患者との接触をなるべく避け、手洗いなどの予防を心がけましょう。

伝染性紅斑は、大人が感染することもあります。子どものように頬が赤くなることは少なく、手足の腫れや関節痛、関節の腫れなどが強く現れます。妊婦が感染すると、胎児に異常が起こり流産等の原因になることがあります。妊娠中は風邪症状のある患者との接触をなるべく避け、手洗いなどの予防を心がけましょう。

伝染性紅斑患者報告数の推移(富山県)



《 全数報告の感染症 》

二類感染症 結核 2 件 (①60 歳代、女性 ②80 歳代、男性)

三類感染症 腸管出血性大腸菌感染症 1 件 (30 歳代、女性、O157、VT1VT2)

五類感染症 カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 1 件 (90 歳代、男性)

侵襲性肺炎球菌感染症 1 件 (80 歳代、女性)

百日咳 1 件 (10 歳未満、女性)

麻疹 3 件 (①20 歳代、男性 ②20 歳代、女性 ③20 歳代、女性)

《 定点報告の感染症 》

今週の県内上位 6 疾患

順位	疾病名	定点あたりの数	
		今週 (増減)	先週
1 位	感染性胃腸炎	5.76 (↑)	5.31
2 位	A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎	2.66 (↑)	2.52
3 位	インフルエンザ	1.83 (↓)	2.31
4 位	伝染性紅斑	0.93 (↓)	1.17
5 位	咽頭結膜熱	0.83 (↓)	1.14
6 位	流行性角結膜炎	0.71 (↑)	0.29

この内容は以下のホームページでさらに詳しくご覧いただけます
アドレス <http://www.pref.toyama.jp/branches/1279/kansen/>

○感染症発生動向調査報告状況（平成31年第13週 平成31年3月25日～平成31年3月31日）

分類	疾患	今週報告分（第13週）						累積報告数					
		新川	中部	高岡	砺波	富山市	計	新川	中部	高岡	砺波	富山市	計
二類感染症	結核			2			2	2	2	10	7	14	35
三類感染症	腸管出血性大腸菌感染症			1			1		1	1			2
四類感染症	E型肝炎							1					1
	A型肝炎							1					1
	レジオネラ症									3		6	9
五類感染症	アメーバ赤痢											1	1
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症				1		1				1		1
	急性脳炎											2	2
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症									1	1	1	3
	後天性免疫不全症候群											1	1
	侵襲性インフルエンザ菌感染症									1	2		3
	侵襲性肺炎球菌感染症			1			1			3	3	2	8
	梅毒									1		6	7
	播種性クリプトコックス症											1	1
	百日咳					1	1			3		5	8
	風しん									1		2	3
	麻しん			1	2		3			1	2		3
	定点疾病 (下段は定点当たりの患者数を示す)	インフルエンザ	12	4	17	24	31	88	1,342	881	2,980	1,618	3,519
1.71			0.80	1.31	3.43	1.94	1.83						
RSウイルス感染症						2	2	8	15	36	3	46	108
						0.20	0.07						
咽頭結膜熱		4	1	14	1	4	24	48	8	113	19	73	261
		1.00	0.33	1.75	0.25	0.40	0.83						
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		2	1	26	3	45	77	51	48	253	105	417	874
		0.50	0.33	3.25	0.75	4.50	2.66						
感染性胃腸炎		22	11	33	9	92	167	433	259	451	222	1,204	2,569
		5.50	3.67	4.13	2.25	9.20	5.76						
水痘				2		10	12	13	6	21	8	99	147
				0.25		1.00	0.41						
手足口病				2		4	6	14	6	10	3	64	97
				0.25		0.40	0.21						
伝染性紅斑		4		15	2	6	27	22	8	157	63	60	310
		1.00		1.88	0.50	0.60	0.93						
突発性発しん		1	1	4		4	10	9	14	47	13	46	129
		0.25	0.33	0.50		0.40	0.34						
ヘルパンギーナ		2					2	36		2			38
		0.50					0.07						
流行性耳下腺炎		1			1	2	1	2	5	1	7	16	
		0.33			0.10	0.07							
急性出血性結膜炎				2		2				4		4	
				2.00		0.29							
流行性角結膜炎				5		5	1	4	13	11	2	31	
				5.00		0.71							
細菌性髄膜炎					1	1					3	3	
					1.00	0.20							
マイコプラズマ肺炎								1	1			2	
感染性胃腸炎（ロタウイルス）				1		1			1	5		6	
				1.00		0.20							
インフルエンザによる入院患者（*）	1	1	1		1	4	38	42	51	88	91	310	

本週報のデータは速報値であり、今後、調査などの結果に応じて若干の変更が生じることがあります。

*インフルエンザによる入院患者累計報告数は、平成30年第36週(9月3日)～の集計です。

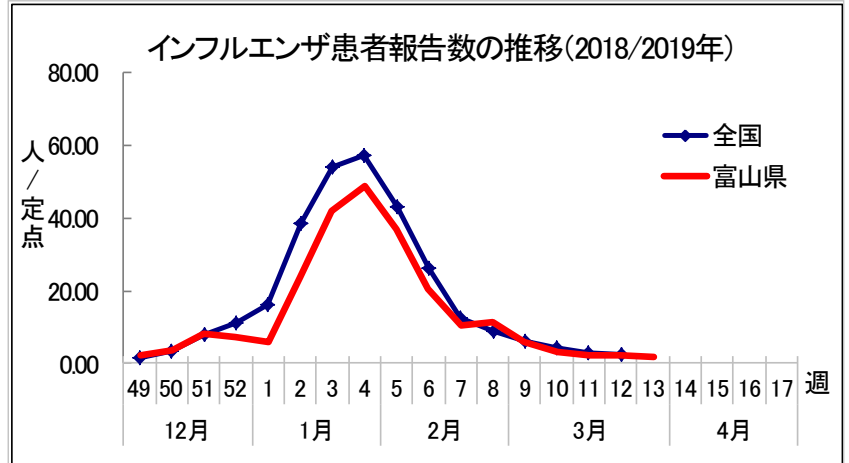


● 定点医療機関からのインフルエンザ患者報告状況

第13週 (3/25~3/31) : 富山県 1.83人/定点

新川 HC (1.71)、中部 HC (0.80)、高岡 HC (1.31)、砺波 HC (3.43)、富山市 HC (1.94)

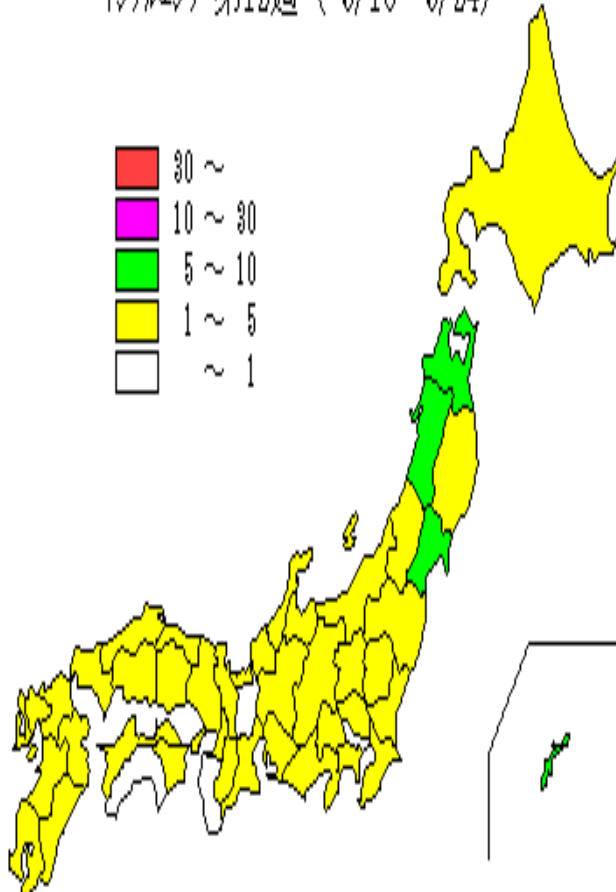
県内のインフルエンザの流行は縮小傾向にあり、終息に向かっていると思われます。



● 都道府県別インフルエンザ患者報告状況 第12週 (3/18~3/24)

全国の患者報告数は、定点医療機関あたり 2.49 人となり、前週の 2.92 人より減少しました。6 県で前週より増加しています。39 都道府県で前週より減少しています。

インフルエンザ第12週 (3/18- 3/24)



都道府県	人/定点	都道府県	人/定点
北海道	3.51	滋賀県	0.98
青森県	9.51	京都府	2.10
岩手県	4.26	大阪府	1.66
宮城県	5.40	兵庫県	1.78
秋田県	9.65	奈良県	1.51
山形県	4.64	和歌山県	0.94
福島県	4.30	鳥取県	4.90
茨城県	1.06	島根県	4.18
栃木県	2.34	岡山県	1.65
群馬県	1.82	広島県	3.23
埼玉県	1.71	山口県	3.49
千葉県	1.35	徳島県	1.70
東京都	0.98	香川県	4.94
神奈川県	1.03	愛媛県	3.30
新潟県	4.72	高知県	0.42
富山県	2.31	福岡県	2.60
石川県	3.25	佐賀県	3.59
福井県	4.43	長崎県	4.84
山梨県	1.34	熊本県	2.13
長野県	2.87	大分県	3.66
岐阜県	1.91	宮崎県	4.64
静岡県	1.14	鹿児島県	1.46
愛知県	2.90	沖縄県	5.21
三重県	1.29	全国	2.49